



Title	西村家所蔵西村天囚関係資料暫定目録（遺著・書画類等）
Author(s)	湯浅, 邦弘; 竹田, 健二; 池田, 光子
Citation	懐徳堂研究. 2021, 12
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86297
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

西村家所蔵西村天囚関係資料暫定目録（遺著・書画類等）

竹田健二
湯浅邦弘
池田光子

本資料目録は、西村時彦（号は天囚）の故郷・種子島（鹿児島県西之表市）の西村家が所蔵する、西村天囚関係資料に関する目録である。

同家の資料に関しては、二〇〇四年に宮内庁による調査が行われており、『西村家所蔵西村天囚関係資料目録』と題する目録（以下、「宮内庁目録」と略称する）、及び書簡類の画像を収めたマイクロフィルムが作成されている。しかし、この宮内庁の調査は、天囚関係の書簡類を中心に、晩年宮内省御用掛を務めた天囚と昭和天皇との関係等の説明を主な目的として行われたものであり、天囚の遺著類等に関してはその対象から除外された。このため、宮内庁目録には記載されていない天囚関係の遺著類等が、西村家にはなお多数存在している。

そこで筆者らは、宮内庁目録に収録されていない資料を主な対象とした調査を、二〇一七年八月から二〇二〇年九月にかけて、断続的に現地に赴いて実施した。調査の概要等については、湯浅邦弘・竹田健二・佐伯薫「西村天囚関係史両調査報告―種子島西村家訪問記―」（『懷徳』第八六号、二〇一八年一月）、湯浅邦弘「西村天囚の知のネットワーカー―種子島西村家所蔵資料を中心として―」（『懷徳』第八七号、二〇一九年一月）、竹田健二「種子島西村家所蔵資料三点に見る西村天囚と重建懷徳堂」（同）、池田光子「種子島西村家所蔵西村天囚関係資料の整理状況と特徴について」（同）を参照されたい。

なお、この調査の実施にあたっては、筆者らのほかに、資料の所有者である西村貞則様・久美様御夫妻、令嬢の

矢田睦美様、佐伯薫氏（一般財団法人懷德堂記念会事務局主事）が一部加わっている。

本目録は、合計五回に及ぶ一連の調査の成果として、上述の宮内庁目録に漏れた西村家所蔵西村天因関係資料の中の、天因関係の遺著及び書画類を中心としてまとめたものである。収録した資料は合計五八〇点余りに及ぶ。なお、印章・文具類については、別稿により発表の予定である。また、アルバム・写真類に関しては、西村家に現存する膨大な写真類から、天因に関係するものを抽出することが甚だ困難なことなどから、抄本類の中に同梱されていたもの（⑤―90―93）を除いて、本目録には収録していない。

筆者らの調査は、基本的に、各資料に仮番号を付し、それぞれその形状・外寸・内容等を確認した上で、凡例に述べる形でそれらを分類し、改めて整理番号を付す、という形で進めた。もっとも、調査対象となった資料には、虫損等による損傷が激しいために、資料名や内容等を十分に確認することのできないものも多く含まれていた。また、調査を行った後の資料は、本稿執筆の時点では、なお仮番号の順に段ボール箱等に収納されている状態である。加えて、器物に関しては、仮番号をそのまま整理番号としている。本資料目録名に「暫定」の語を付

しているのは、こうした事情による。

調査の実施に当たっては、西村貞則様・久美様御夫妻、矢田睦美様、及び西之表市の種子島開発総合センター（鉄砲館）の関係者各位に、多大なる御協力を賜った。ここに特に記し、厚く御礼を申し上げる。

（竹田健二）

〔附記〕 本稿は、平成三〇年度・三一年度島根大学「萌芽研究部門」研究プロジェクト「西村天因関係新資料の研究」（研究代表者・竹田健二）の成果の一部である。

凡例

・資料は、①書籍・②雑誌・③その他印刷物・④スクラップ類・⑤抄本・⑥器物1（軸・拓本）・⑦器物2（額・その他）に分類し、それぞれに整理番号を付して配列した。

・各資料について、整理番号・資料名・点数・備考・外寸（縦・横。単位cm）・仮番号・現時点で収蔵されている箱番号を記載した。

・各分類の整理番号は、基本的に以下に述べる資料名に基づき、あいうえお順に付した（但し、⑥・⑦の器物類を除く。器物類は仮番号をそのまま整理番号としている）。なお、①書籍の中の英語名の資料については、末尾に付して、アルファベット順に配列した。

・資料名については、基本的に内題もしくは外題に基づく。内題・外題ともに存在する場合は基本的に内題を優先したが、複数の資料が合冊とされている資料の場合、外題が資料名としてふさわしい場合が認められる。このため、一部について外題を採用した場合がある。

・内題・外題が確認できないなどの理由により、資料名の確定が困難な資料については、便宜的に仮称を付すこととし、それはの資料名の先頭に「(仮)」と付して

明示した。仮称を付した資料については、確定的な資料名を有する資料の後に配列した。なお、⑥・⑦の器物類の資料名は、基本的にすべて仮称であることから、「(仮)」と付していない。

・①書籍・③その他印刷物において、同一の資料が複数ある場合は、基本的に同じ整理番号を親番号とし、各資料に子番号を付した。なお、①『懷徳堂考』については、版の異なるものに、それぞれ別の整理番号を付した。

・備考には、確認された印記、用箋、及び資料の内容等に関する情報を記述した。また、③その他印刷物・④スクラップ類・⑤抄本に関しては、「碩園先生著述目録」〔懷徳〕第二号 碩園先生追悼録〔懷徳堂堂友会、一九二五年〕所収に掲載されている資料に該当すると考えられるものについて、その情報を備考に記した。この点に関しては、本誌所収の竹田健二「碩園先生著述目録」と現存資料についてを参照されたい。

・⑥器物1（軸・拓本）については、天囚関係のもの・前田豊山関係のもの・天囚の交流が窺えるもの・その他貴重と思われるもの・拓本類に分類し、それぞれ整理番号に見出しを付して示す。

・判読不能の文字については、「□」で示した。

① 書籍

整理番号		資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
親番号	子番号							
1		居酒屋之娘	1	同盟分舎、明治21年(1888年)。カバーには「西村天囚居士著／居酒屋之娘／東京金盛堂蔵版」。扉には「西村天囚居士著／居酒屋の娘／同盟分舎発行」。	18.5	12	42	2-1
2		上野理一伝	1	朝日新聞社史編纂室編、朝日新聞社、昭和34年(1959年)。索引有り〔「西村天囚」の項目頁多数あり〕。箱入り。	21.8	15.8	151	6
3	1	延徳本大学	4	大正13年(1924年)。帙なし。奥付左に「第四號」の印記有り。	27	18.8	7	1-1
	2			大正13年(1924年)。帙あり。奥付左に「第八九號」の印記有り。			40	2-1
	3			大正13年(1924年)。帙あり。奥付左に「第八六號」の印記有り。			69	2-2
	4			大正13年(1924年)。帙あり。奥付左に印記有るも虫損のため判読不能。			89	2-2
4		尾張敬公	1	名古屋開府三百年紀年会、明治43年(1910年)。	22.5	15	4	1-1
5	1	懷徳堂考	上巻・下巻 各1	上巻明治43年(1910年)。下巻明治44年(1911年)。上巻の序文の上に印記「天囚書室」、上巻の初めの所々に朱筆の書き入れあり。上巻目次の前の白紙の頁に、「懷徳堂先賢伝」と題書き、更に主で見せ消す。また目次及び第1頁の「懷徳堂考上巻」を「懷徳堂先賢伝上巻」に朱筆で修正。書名の変更を意図したことを示す。また本文にも修正を加えた痕跡あり。	17	13	115	4
	2			明治44年(1911年)。上巻欠、下巻のみ。	17	12.5	36	2-1
	1	懷徳堂考	6	財団法人懷徳堂記念会、大正14年(1925年)。ペーパーバック版。	22.1	15	1	1-1
6	2						24	1-2
	3						28	1-2
	4						29	1-2
	5						30	1-2
	6						31	1-2
7		懷徳堂考	1	発行者・発行年不明。明治44年版でも大正14年版でもない線装本。上巻欠、下巻のみ。本文第1葉表に印記「天囚書室」。	24	16.2	86	2-2

8	1	学界乃偉人	3	杉本梁江堂、明治44年（1911年）初版。箱なし。	22.7	15.5	21	1-2
	2			明治44年（1911年）再版。箱なし。			57	2-1
9	3			明治44年（1911年）再版。箱あり。			58	2-1
	1	紀行八種	2	誠之堂書店、明治32年（1899年）、再版。	22	14.6	38	2-1
10	2			誠之堂書店、明治32年（1899年）、3版。	22	14.7	126	4
		志能布久佐	1	刊行年等不明。第1葉表に印記「天因書室」有り。他にも蔵書印有り。	17.5	12	170	6
11		邵青門文鈔	1	西村天因・長井吉徳編、出版人：須原鐵二、明治16年（1883年）。「重野安穩先生校閲 門人西村時彦・長井吉徳編」。全6巻のうち「巻之四」のみ。他は欠。	12.5	9.5	119	4
12		精神振作詔書謹解	1	田中常憲（京都府立福知山中学校長）著。博文堂、大正13年（1924年）。序文は前文部大臣・岡野敬次郎と西村時彦。仮152-2「朝見式勅語謹解」（宝文館、昭和2年（1927年）発行）と同一著者。岡野は「はしかき」において西村を「我が師西村天因博士」と呼んでいる。	19	13	152-1	6
13		征清戦報	1	刊行年不詳。「征清従軍記」「従軍日記」「奉天府志」「従征録」「入清日記」「戦陣見聞録」「山東觀戦記」「牛莊紀要」。表紙に「征清戦報」と打ち付け書き。第1葉表に「天因書室」の印記あり。	30.5	23	19	1-1
14	1	碩園先生遺集	全5冊各1	財団法人懷徳堂記念会編、全5冊、昭和11年（1936年）。第一「碩園先生文集巻一」、第二「碩園先生文集巻二」、第三「碩園先生文集巻三」、第四「碩園先生詩集」、第五「屈原賦説巻上」。戦なし。	26.4	18	22	1-2
	2		1	財団法人懷徳堂記念会編、昭和11年（1936年）。「碩園先生文集巻一」のみ。	26.5	18	141	5
14	3		1	財団法人懷徳堂記念会編、昭和11年（1936年）。「碩園先生文集巻二」のみ。	26.4	18	107	3
	4		1	財団法人懷徳堂記念会編、昭和11年（1936年）。「碩園先生文集巻三」のみ。	26.5	18	129	4
5	5		1	財団法人懷徳堂記念会編、昭和11年（1936年）。「碩園先生詩集巻一」～「巻三」のみ。	26.5	18	123	4
	6		1	財団法人懷徳堂記念会編、昭和11年（1936年）。「屈原賦説巻上」のみ。	26.5	18	83	2-2

整理番号 親番号 子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
15	朝見式勅語謹解	1	田中常憲(京都府立福知山中学校長)著。宝文館、昭和2年(1927年)。	186	128	152-2	6
16	南島碑功伝	1	誠之堂書店、明治32年(1899年)。	221	146	3	1-1
17	西村天囚伝	1	後醍醐天皇著、西之表市、昭和42年(1967年)。上巻のみ、下巻欠。種子島西之表市が島民(教職員及び有志者)に頒布するために、朝日新聞社の許可を得て、別途印刷したもの。	244	174	6	1-1
18	日本宋学史	1	朝日新聞社、昭和26年(1951年)。朝日文庫12。	185	13	41	2-1
19	老嫗物語	1	西之表市立図書館、昭和63年(1988年)。昭和9年(1934年)の榕城尋常高等小学校発行本を複製したもの。	258	178	8	1-1
20	BOSTON OLD AND NEW	1	THE G.W. ARMSTRONG D.R. & N.CO、明治37年(1904年)「写真集。表紙に「ボストン日本人會」の打ち付け書き。寄贈されたものか。	17	235	46	2-1
21	WASHINGTON	1	THE WILLIAMSON HAFNER CO、明治40年(1907年)。 DENVER・COLORADO	245	30	18	1-1

②雑誌

整理番号 親番号 子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
1	懷徳 第1号	1	懷徳堂友会、大正13年(1924年)。	226	152	32	1-2
2	懷徳 第2号 碩園先生追悼録	1	懷徳堂友会、大正14年(1925年)。	22	151	2	1-1
3	なにはかた 第8冊	1	浪華文学会、明治24年(1891年)。表紙剥落。印記「天囚居士」。秋浩生「小春天」、桃蹊隱士「一釘穿」、紫芳散人「郷心」、霞亭主人「紅葉時」、好尚堂主人「善女人」収録。	19	128	150	6
4	なにはかた 第9冊	1	浪華文学会、明治25年(1892年)。表紙剥落。霞亭主人「初望」、圭園子「ローザー夢物語」、仰天子「うつみ火」、天囚居士「十文字香」、「雑誌」所収。冒頭葉右下印記は不鮮明だが「天囚居士」か。	185	125	91	2-2
5	なにはかた 第15冊	1	浪華文学会、明治25年(1892年)。仰天子「女ごころ」、磯野秋渚「兼良堂」、枯川漁史「肥えた旦那」、紫芳散人「おぼこ娘」、霞亭主人「孕雀」、「雑誌」所収。			140-1	

6	なにはかた 第18冊	1	浪華文学会、明治25年（1892年）。半牧居士「忍び車」、武富瓦全「月桂冠」に「当世品定 枯川漁史」、「油画師」欠伸居士、「葦の葉分」故萩原廣道翁遺稿／小田清雄訂正傍註、「雜録」所収。会員名簿有り。	19	12.5	140-2	5
7	文芸倶楽部 第3巻第5編	1	博文館、明治30年（1897年）。文芸倶楽部臨時増刊小説入家選。表紙は剥落。天因の小説「薩摩心中」を収録。	22.5	15	99	3

③その他印刷物

整理番号		資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
親番号	子番号							
1	1	岩倉公神道碑	3	「岩倉／島津 二公神道碑考定本 各五通」と打ち付け書きされた紙包みに、③-8-1～4「島津公神道碑」と同梱。3本うちの1本には表紙に「時彦私印」の印記あり、他の2本には印記無し。印刷されたものを仮綴じ。	28	20.1	120	4
	2						120	
	3						120	
2	1	影印延徳本大学縁起	3	仮綴。	28	20	48	2-1
	2						49	2-1
	3						66	2-1
3		教育勅語下賜三十年記念 文学博士西村時彦先生講演 速記	1	有隣会、高津・日本橋両小学校、高津軍人分会、大正9年（1920年）。「碩園先生著述目録」「六、講演」中の「五、教育勅語下賜三十年記念講演速記 大正八年」に該当。	19	12.9	5	1-1
4		桂庵筆二関スル所見	1	「桂庵筆二関スル所見 碩園」と記された題簽剥落。印刷された同一の葉（前半を欠くもの）を多数綴じたもので、各葉の末尾に「大正癸亥六月後学大隅西村時彦書」。印記無し。「大正癸亥」は大正12年（1923年）、内容・表現から、「延徳本大学」（大正13年〔1924年〕）出版時に天因が附した跋文の一部と見られる。但し、「延徳本大学」の跋文とは字句に異同がある。出版された跋文の附記によれば、「延徳本大学」は大正12年夏に印刷を終えるも、9月関東大震災により焼失、そのゲラに基づいて翌大正13年春に再度印刷・出版された。本資料は、焼失を免れた大正12年版の跋文の一部で、出版時に加筆修正が加えられる前のものと推測される。	26.5	19	100	3

整理番号		資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
親番号	子番号							
5		古典聚目 庚申号外	1	松雲堂・鹿田静七、大正9年(1920年)12月。鹿田が北京より將來した「古書本類の特に良本」の目録。表紙に「西村様」の付箋貼付。臚本。	24.5	16.8	148	5
6		後藤碩田伝・大化帖抜	1	「後藤碩田伝」は天因撰、磯野秋渚書。「天因居士」・「紫綾」の印記有り。「大化帖」は、後藤碩田の画集「大化帖」の跋文。明治44年(1911年)10月、天因撰。「天因居士」・「乾坤永□□(2字不明)」の印記有り。	38	45.9	71	2-2
7		故西村博士記念会会務報告書	1	故西村博士記念会、大正14年(1925年)。	19	13.1	25	1-2
8	1	島津公神道碑	4	「岩倉／島津 二公神道碑考定本 各五通」と打ち付け書きされた紙包みに、③-1-1-1～3「岩倉公神道碑」と同梱。4本のうちの1本には表紙に「時彦私印」の印記あり、他の3本には印記無し。印刷されたものを仮綴じ。	28	20.1	120	4
	2						120	
	3						120	
	4						120	
9		種子屋久碑文集録	1	熊毛郡教育会、発行年不明。臚写版。表紙に「西村」・「野間□」の印記あり。「懷徳伝来紀功碑」・「豊山前田先生紀徳碑」などを含む。返り点・語釈・通読が附いている。35葉。序文は「八坂康紀」。	26.5	19	137	5
10		典札文字	1	表紙に「典札文字」と打ち付け書き。第1頁の「立證趣旨」及び目次によれば、本来の書名は「辯第一號證」か。第1頁に「碩園珍藏」の印記、及び「子手ニ成ル」の墨筆の書き込み有り。本文に朱筆による修正等を指示する書き入れ有り。明治22年(1889年)2月12日～大正7年(1918年)10月30日の朝日新聞の記事を集めたもので、「碩園先生著述目録」「十二、鈔録」中の「典札文字」に該当。	24.5	17	62	2-2
11		敦煌石室の遺書 (懷徳堂夏期講演)	1	石濱純太郎著、大正14年(1925年)12月。非売品。	19	12.8	149	5

12		中井履軒関雎一首并反歌 古部多飛／草場佩川鶴巢 三章百舌鳥の囀	1	1 葉。天因との関係については不明。	22.7	31.5	121	4
	1	西村博士十年祭記念	7	昭和9年(1934年)か。	24.2	16.5	26	1-2
	2							
	3							
13	4							
	5							
	6							
	7							
14		駢文引例	1	表紙に「駢文引例」と打ち付け書き。謄写版。印記「天因書室」。一部朱筆の書き込みあり。「碩園先生著述目録」「三、講義底稿」中の「二、駢文引例 一冊」に該当。	26.5	20	64	2-2
15		南瀛州欽山一覽	1	「遼陽附近破山」・「鉄嶺附近破山」からなる。謄本。仮綴。	24.5	16	147	5
16		力士西海報恩碑・故岩崎男爵晩年右文ノ事歴	1	「力士西海報恩碑」と「故岩崎男爵晩年右文ノ事歴」との合冊。「力士西海報恩碑」は大正6年(1917年)3月の撰。西ノ海の写真・天因の撰による漢文の原文(返り点付)・その書き下し文を収める。「故岩崎男爵晩年右文ノ事歴」は明治41年(1908年)、静嘉堂文庫員識、漢字片仮名交じり文。両者とも朱筆による書き入れ有り。	22.3	15.7	27	1-2
	1	(仮) 延徳版大学送付状	7	大正13年(1924年)9月付。西村時教名のもの。『延徳本大学』を関係者に送付する時のもの(文中に同年7月に没した天因に言及あり)。	23.3	9.8	163	6
	2							
	3							
17	4							
	5							
	6							
	7							

整理番号		資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
親番号	子番号							
18		(仮) 新聞記事	1	仮綴、刊本。明治37年(1904年)2月12日「大詔を捧読す」(日露戦争の開戦(2月8日)後、同月10日に発表された詔勅が新聞紙上に発表された日の記事)、明治38年(1905年)10月18日「護和の大詔」(10月14日の日口講和条約批准の後、同月16日付で発表された詔勅が17日の号外に掲載され、それを受けて翌日掲載された記事)、大正2年(1913年)3月21日「中興節の建議を望む」(明治天皇の天長節11月3日を「中興節」とすることを帝国議會に希望する内容)等、明治末から大正初めにかけて新聞に発表された論説の類を再印刷したもので、スクラップではない。その配列は、必ずしも発表時間順ではなく、一部朱筆による加筆修正有り。天皇に関連する論説が多い。	245	17	175	6

④ スクラップ類

整理番号		資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
親番号	子番号							
1		朝日新聞二十五年誌	1	「朝日新聞二十五年周(一ヶ月)記念発行／貴重なる記念品なり／保存すべし」と朱筆で記された封筒に入れられた、朝日新聞二十五年周年記念特集の「朝日新聞二十五年誌」一面(明治37年(1904年)1月25日付)、及び切り抜かれた新聞記事(天囚他の漢詩)。	24.5	8.5	81	2-2
2		支那広告備考	1	表紙に「支那広告備考」と打ち付け書き。表紙書付題の下に印記「天囚居士」書翰や山水画の新聞広告のスクラップ。版心に「景柱文篇」とある用紙(天囚が書いた「立皇太子賀表」・「カト西海報恩碑」などの草稿の反故)の裏紙を使用。仮綴。	24.5	17	96	3
3		世界一周勝地	1	表紙に「世界一周勝地」と打ち付け書き。「第二回本社世界一周會員」(一)～(五)・「世界一周畫報」ほか、第二回世界一周会に關して新聞に掲載された写真や絵を中心とした新聞記事のスクラップ。今井貫一から西之表の天囚に当てた封書が挟み込まれている。	28	20	68	2-2
4		大典文例	1	表紙に「大典文例」と打ち付け書き。大正天皇即位に關する新聞記事のスクラップ。「勅語」・「壽詞」(大正4年(1915年)11月10日)・「京都帝國大學の賀表」・「登極頌」など。仮綴。	24.5	16.5	82	2-2

5	浪華画人略	1	表紙に「浪華画人略」と打ち付け書き。新聞記事「大阪喧嘩の今昔緒言」・「藩政時代」・「維新前後時」のスクラップ。朱筆の書き入れ有り。「碩園先生著述目録」「七、伝記年譜」中の「五、浪華画人略 朝日新聞所載」に該当。	27.6	19.5	35	1-2
6	話草 第一	1	表紙に「話草 第一」と打ち付け書き。仮綴。「貞女の亀鑑」「陛下の御使徳」などの新聞スクラップ。	24	16.5	124	4
7	笠鞋漫録	1	表紙に「笠鞋漫録」と打ち付け書き。「笠鞋漫録」の新聞スクラップ。表紙に「天因居士」の印記有り。仮綴。「碩園先生著述目録」「八、雑著」中の「笠鞋漫録 東北方面漫遊紀行」に該当。	24	15.8	102	3
8	論文 自三十九年至四十年	1	「海防調査復命書 卷之一 第二編」を台紙に、新聞記事「戦時習慣の性成」「憲政本党と政友会」「伊藤統監の演説」等を貼り付けたスクラップ。表紙に「論文/自三十九年/至四十年」と打ち付け書き。また「天因居士」の印記有り。「碩園先生著述目録」「五、論文」中の「三、論文（新聞論説）自明治三十九年至同四十年」に該当。	24	15	127	4
9	論文 自三十七年至三十八年	1	「海防調査復命書 卷之三 第一編」を台紙に、新聞記事「決裂の機」「李鴻章の密電/密約案を読む」等を貼り付けたスクラップ。表紙に「自三十七年/至三十八年/論文」と打ち付け書き。また「天因居士」の印記有り。「碩園先生著述目録」「五、論文」中の「二、論文（新聞論説）自明治三十七年至同三十八年」に該当。	24	15	33	1-2
10	(仮) 新聞記事スクラップ	1	新聞記事「第二回世界一周会」。一面に「詩集/歌集」（朱筆）、一面に「十三日/西村講師/支那文学二講試験問題」及びその上面に「拙案」（いずれも墨筆）と書かれた紙袋（虫損激しく表裏の判別不能）入り。	30	21	16	1-1
11	(仮) 新聞記事スクラップ	1	新聞記事「豊後路」・「九州巡礼」のスクラップ。	28.9	22	10	1-1
12	(仮) 新聞記事スクラップ	1	新聞記事「清国内乱史話」のスクラップ。表紙右上に「中井□□（竹山か）蕉園/中井履軒」と打ち付け書き。本文第1葉のみ「懷徳堂考」下巻の清書原稿用紙。	27	19.5	11	1-1
13	(仮) 新聞記事スクラップ	1	新聞記事「清国内乱史話」・「清国文学の獄」（榎山衣洲著）のスクラップ。	13.5	20	52	2-1
14	(仮) 新聞記事スクラップ	1	新聞記事「学界の偉人」・「南国記」のスクラップ。朱筆入り（出版用原稿か）。	27.8	19.5	13	1-1

整理番号 親番号	子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
15		(仮) 新聞記事スクラップ	1	新聞記事「亀門の二廣」・「広瀬旭莊」・「広瀬淡窓」のスクラップ。綴じ糸が切れ、各葉の配列が乱れている。「碩園先生著述目録」 「七、伝記年譜」中の「二、龜門之二廣」に該当。	26.2	19.4	51	2-1
16		(仮) 新聞記事スクラップ	1	新聞記事「老骨張」(「酔奴伝」に朱筆で改題)・「君が代」(「狂人」に朱筆で改題)のスクラップ。朱筆による削除・書き込み・ルビあり。出版用の原稿としたものか。新聞社不明。表紙・裏表紙に「内大臣府」の罫紙使用。	24.5	31.5	97	3
17		(仮) 絵葉書スクラップ	1	ロンドン・アメリカ・ハワイなどの絵葉書をスクラップしたもの。世界一周旅行関係か。	28	22.5	17	1-1

⑤抄本

整理番号 親番号	子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
1		愛牡丹説・春日下勾水先生書	1	石瀧純太郎が天因に批正を乞うたもので、「愛牡丹説」1葉(24.5×33.5)と「春日下勾水先生書」2葉(同)とを仮綴じ。「景社文稿」の原稿用紙使用。	24.5	16.8	90	2-2
2		朝日新聞記者足下	1	1葉。朝日新聞記者に対して意見を述べた文の一部(未完)。	24	33	133	5
3		尼崎修斎・大坂尼崎屋又右衛門清孝塙誌・大坂尼崎屋又右衛門清孝婦人伊藤氏撰誌	1	「道学淵源録増補」より「尼崎修斎」を、また「大坂尼崎屋又右衛門清孝塙誌」・「大坂尼崎屋又右衛門清孝婦人伊藤氏撰誌」を「親垂加文集巻中」より抜粋。仮綴じ。4葉。	24.4	16.5	155	6
4		一夜六十二首	1	巻物。「平山武経」が一夜に漢詩62首を詠んだもの。	25.5	16.3	201	6
5		妹か記念	1	歌集。第1葉表に「最愛の妻にわかれし夜」と題して天因の和歌二首が記され、以下「あさ子」「ゆふ子」他の和歌が記されている。天因の先妻・タカが明治25年(1892年)に亡くなった時のものか。	27	19.5	172	6
6		売渡証書	1	4葉。大正7年(1918年)1月26日付。松ヶ枝町の家を天因が8,200円にて、棚橋松太郎より購入した時のもの。浪速銀行が抵当権を設定。	27.8	20	187	6

7	延徳版大学寄贈ニ対スル 礼状入	1	「延徳版大学寄贈ニ対スル礼状入」と墨筆で打ち付け書きされた包み紙のみ。朱筆で「保存」・「280」とも記されている。⑤-73が入っていたものか。	なし	なし	185	6
8	大阪阿倍野墓地許可証入 重要書類	1	袋のみ。「亡相浅子／亡時彦／亡幸子」3人の墓についての許可証。	なし	なし	177	6
9	懷徳堂考之一	1	版心に「村山合名大阪朝日新聞会社」とある用紙を使用。『懷徳堂考』上巻のもとなった、大阪入文会第二次例会の講演原稿を含むものと思われる。2020年1月に修復作業済み。資料名は修正後の内題による（もとは「懷徳堂研究之一」）外題は虫損により判読困難だが、内題同様に「懷徳堂研究」から「懷徳堂考」に修正されていると推測される。	27	20	154	6
10	懷徳堂ノ沿革	1	野紙4葉仮綴。朱筆書き入れ有り。	24.2	17	65	2-2
11	解約証	1	1葉。大正8年(1919年)7月12日付。天因と浪華銀行(取締役は愛甲兼達)との間で結ばれた、大阪市北区松ヶ枝町の宅地の抵当権の解約証。	24.4	33.3	136	5
12	漢文總説	1	内題「漢文總説」。墨筆・朱筆による修正・書き込みが全面的に加えられた草稿。「漢文総説草稿」との外題が記され、「天因居士」の印記のある題簽が剥落して挟み込まれている。表紙には紺色の七宝繋ぎの模様のあるものを使用。ほぼすべての葉が裏紙を使用。「碩園先生著述目録」「三、講義底稿」中の「六、漢文總説草稿」に該当。	27	18.4	56	2-1
13	漢文體製槩説	1	表紙に外題「漢文体制概説」と打ち付け書き。資料名は内題による。「漢文體製(或いは制)槩説」一〜五を収録。大正6年(1917年)7月17日付の自序によれば、同年7月に文部省が京都帝国大学において、師範・中学・女学校等の教員向けの講習会を開催した際の、天因の講義原稿。天因は修訂を加えた上での出版を考えており、朱筆の修正が加えられている。「景社文稿」の原稿用紙使用。「碩園先生著述目録」「三、講義底稿」中の「五、漢文體別槩説」のすべて、或いは一部に該当。	25	17.5	85	2-2
14	戯曲解題	1	目録1葉、本文部分は8葉のみで以下余白。本文第1葉表の内題「戯曲解題」の下に「小天閣主人通目即録」。	29.5	18	125	4
15	曲部解題	1	内題「曲部解題」。「天因居士」著。但し、冒頭の「琵琶記」2葉半の記述があるのみで、以下記述なし。「天因居士稿本」の用箋を使用。	30.7	17.5	79	2-2

整理番号	子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
16		曲目索引	1	内題「曲目索引」。「天因居士稿本」の原稿用紙を使用。冒頭の2葉に索引の「あいうえを」部分の記述があるのみで、以下記述なし。「碩園先生著述目録」「十四、目録索引」中の「五、曲目索引」に該当。	26	19	74	2-2
17		紀和紀行	1	16葉版綴。①-12・15の著者・田中常憲が天因に批正を乞うたもの。漢文の紀行文。	24.2	16.5	153	6
18		金剛拜借証	1	100円の借用書。抵当は種子島の土地。明治29年(1896年)。	24	16.5	161	6
19		敬公資料	1	版心に「村山合名大阪朝日新聞会社」とある罫紙を使用。尾張家(徳川義直)に関する記録。「碩園先生著述目録」「十三、研究資料」中の「敬公資料―一冊」に該当。	27	19.5	171	6
20		京阪神三鱗会員	1	京阪神在住の種子島出身者の会「三鱗会」の会員名簿(27名)。筆頭が八坂千尋、天因の名は無く、西村時教が含まれている。	19	51.5	159	6
21		芸文談資	1	「芸文談資 巻一」と記された題簽が剥落し挟み込まれている。表紙には、紺色の七宝繋ぎの模様ものを使用。「詩問」「小竹文薈」「冠辭考」「昏辭考」「桐城派師友淵源考」を収録。墨筆・朱筆の書き込み等あり。「碩園先生著述目録」「二、編著」中の「九、藝文談資 一冊」に該当。	26	18.5	75	2-2
22		元曲琵琶記	1	内題「元曲琵琶記」。「天因西村時彦」著。「朝日新聞合資会社」の罫紙使用。記述は第1葉のみであり、以下は記述無し。表紙に紺色の七宝繋ぎの模様ものを使用。	27	18.5	50	2-1
23		講案	1	「尚書論文自序」・「紀年書法考」・「岡島君孝像記」・「瑠璃寺山林記」・「高野山金石図説序」・「貴族院議員從二位勲一等高崎君墓石文」・「貴族院議員正三位勲一等高崎君墓石銘」などの草稿の類の雑纂。墨筆・朱筆による多数の修正・書き込み等有り。すべての葉が裏紙を使用。題簽の外題は修正(胡粉を塗り)上書きが加えられているが、「講案 大正九年九月」か。また題簽には「天因居士」の印記有り。表紙には紺色の七宝繋ぎの模様ものを使用。大正9年12月の西村時彦宛大阪朝日新聞社の印刷物(京都ホテルにて開催された「小宴」出席者への記念品贈呈の添え書き)が挟み込まれている。「碩園先生著述目録」「三、講義底稿」中の「一、講案一冊 大正九年九月」に該当。	26	18.5	54	2-1

24	江漢週回録・通志堂経解 總目録・宋元資治通鑑評語	1	表紙に「江漢週回録／通志堂経解目録／資治通鑑評語」と打ち付け書き。「江漢週回録」、「通志堂経解總目録」、「宋元資治通鑑評語」の合冊。「江漢週回録」は野紙を、後二者は「景杜文稿」の原稿用紙を使用。「江漢週回録」あるいは全体が、「碩園先生著述目録」「四、遺稿」中の「三、江漢週回録 明治三十一年」に該当か。	25	17.3	87	2-2
25	杭州紀行	1	表紙に「杭州紀行」と打ち付け書き。本文には総ルビ。一部朱筆修正有り。「碩園先生著述目録」「八、雜著」中の「杭州紀行」に該当。	28	19.8	47	2-1
26	古文辭論畧 卷中	1	内題「古文辭論畧 卷中」（修正の痕跡有り）。「古文辭論畧 卷中」と記した題簽が剥落して挟み込まれている。西村時彦述。抄本。朱筆・墨筆の書き入れや、圈点等多数有り。先頭にある「集部第一」の冒頭部の本文は、⑤-13「漢文體製與說一集部第一」の冒頭と内容が重複し、⑤-13に認められる朱筆の加筆に従う。表紙には紺色の七宝繋ぎの模様のものを使用。	27.2	18.3	105	3
27	雜纂	1	表紙に「雜纂」と打ち付け書き。青柳秋堂の死を悼む文、「君子名義考」（西村時彦撰、「碩園文稿」の原稿用紙を使用）・「露紙と世界一周会」・「淀川改良工事沿革略史」・「浪華文学伝目録」（天因西村時彦／秋渚磯野秋渚 同編）等を含む雜纂。各種の原稿用紙・野紙を使用。	28.6	20	106	3
28	鮫島宗哲君墓誌銘	1	全3葉。仮綴の草稿。全面的に朱筆による修正有り。	24	16	63	2-2
29	重野先生直 詩草稿	1	包み紙1枚のみ。	26	17	173	6
30	詩集	1	表紙に朱筆にて「詩集」と打ち付け書き。表紙右上に別に「詩」（朱筆）と打ち付け書き。雜纂。巻末に「故豊山先生ニ聞スル義捐金収支調書」あり。	28	20	20	1-1
31	詩文集	1	表紙に墨筆で外題「詩文集」と打ち付け書き。また朱筆で表紙右上に「詩」と打ち付け書き。雜纂。「紀災後事詩」・「西京遊話」・「登霧島山四十韻」・「天因游草叙」などを収める。「碩園文稿」「天因書室」等の各種の野紙・原稿用紙を使用。	28.5	20.5	84	2-2
32	自明治三十八年五月十五日 至同二十一日一週間朝 毎日電比較概説	1	仮綴。「村山合名 大阪朝日新聞会社」の野紙等を使用。	24.5	16.5	144	5
33	狩猟資料	1	「天因居士稿本」の原稿用紙を使用。日本の狩猟の歴史について記す。	30.6	17.3	113	3

整理番号 親番号	子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
34		松鶴荘問話	1	「景社文稿」の原稿用紙を使用。「松鶴荘問話」・「芝尾君墓誌銘」・「紀宇都宮由的事」・「紀金蘭斎事」を収録。7葉のみ書込があり、以下すべて空白。	25	18	142	5
35		尚書異説	1	表紙に「尚書異説 全」と打ち付け書き。本文第1葉第1行に「西村時彦学」。「尚書」の句読等に関する注等を集めたもの。未完。「碩園先生著述目録」「一、撰著」中の「尚書異説一冊未刊」に該当。同目録に「孔傳蔡傳及清儒江聲、段玉裁、王引之、孫星衍、黃式三、皮錫瑞、王先謙、吳汝綸等に至るまでの諸儒の異説を明かにせられ、間々附するに按語を以てせらる。」とある。	28	20	116	4
36		尚書文義	1	上・中・下、各1冊。内題は、上・中は、「尚書論文」から「尚書文義」に修正（見せ消し・加筆）。下は当初から「尚書文義」。上巻第1葉には「西村時彦撰」、中巻・下巻は「西村時彦学」。「碩園先生著述目録」「一、撰著」中の「尚書文義三卷初纂未刊」に該当。同目録に「初尚書論文と題せられ、後文義と改めらる。博く皇漢学者の説に涉りて、其の精粹を採り、尚書の文と義とを説かれたるものなり。」とある。	28	19	130	4
37		小説傳奇目録	1	表紙に「書目」と打ち付け書き。「景社文稿」や「天因書室」などの原稿用紙・野紙を使用した抄本「小説伝奇目録」・「中華書局」の他、刊本の「昌平叢書書目」など雑多な書目の合冊。「碩園先生著述目録」「十四、目録索引」中の「三、小説傳奇目録 一冊」に該当。	26.5	19	101	3
38		小天地閣雑攷	1	雑纂。「儒仏関係大略」と題する講演（7月12日、大阪西本願寺別院）の原稿・「儒教不亡論」・「海東君子国」・「道並行而不相害論」など、「朝日新聞合資会社」の野紙使用。「小天地閣雑攷 壬子夏」などの外題が記され、また「天因居士」の印記のある題簽が剥落し挟み込まれている。表紙に紺色の七宝繋ぎの模様のものを使用。「碩園先生著述目録」「十一、隨筆」中の「小天地閣雑攷 壬子夏」に該当（壬子は明治45年・大正元年〔1912年〕）。	26.8	18.5	53	2-1
39		小天地閣雑攷	1	雑纂。抄本。地には「天因雑攷」。「朝日新聞合資会社」の野紙を使用。「小天地閣雑攷」・「漢文不可廢論」・「大阪市史」・「讀大阪市史」等を収録。表紙には紺色の七宝繋ぎの模様のものを使用。	27	18.5	103	3

40	小天地閣文冊	1	表紙に「小天地閣文冊 辛亥九月」（辛亥は明治44年〔1911年〕）と打ち付け書き。「古處山人遺集序」・「懷徳堂報告書」・「決死隊鐵牌記」・「懷徳堂記念会趣旨」の草稿などを収録。「天因書室」・「景社文稿」などと記された原稿用紙の裏紙を使用。	25	17.5	77	2-2
41	詩話中論文・全唐文記事抄	1	「詩話中論文」（「歴代詩話」・「歴代詩話統編」を収録、いずれも「碩園 村彦輯」と「全唐文紀事抄」との合冊に表紙を付けたもの。「歴代詩話」第1巻表右下に印記「碩園珍蔵」。小口に「三 詞章字彙編 詩話 全唐文記事」。「碩園先生著述目録」「十二、鈔録」中の「詩話中論文」に該当。	27.3	17.8	111	3
42	清国職制並文稿	1	表紙に「清国職制並文稿」と打ち付け書き。雑纂。草稿類と見られるが、虫損・圧着が激しく、内容の確認困難。	26	19.5	78	2-2
43	正六位上野君墓志・弔辭	1	1葉。「景社文稿」の原稿用紙を用いて、表面に上野理一の墓志の草稿、裏面に弔辭の草稿をそれぞれ記したものの。修正多数。	25	33.5	135	5
44	先考告文	1	天因の亡父・時樹への告文の草稿（朱筆有り）。大正5年（1916年）8月7日付。	39.5	52	191	6
45	宋学淵源研究	1	資料名は表紙に打ち付け書きされた外題による。抄本、草稿。朱筆有り。未刊。虫損甚大。「碩園先生著述目録」「十三、研究資料」中の「宋学淵源研究一冊」に該当。	27.5	19.4	166	6
46	蔵書幅目録	1	外題（打ち付け書き）は「蔵書幅目録」だが、宮内省の野紙を用いた「大政官日誌」、重健懷徳堂の定日講義と日曜講演や懷徳堂の「本領」に言及した文章・「懷徳堂定期講演規定」・瀧川資言の「纂標論語集註自序」・「清朝人文集目録」・「西村先生蔵幅目録／編纂所在庫」・「軸物目録」・「茶祖珠光伝」ほかの雑纂。	26.5	19.3	112	3
47	第二回世界一周（三十五）米國遊程回想	1	第二回世界一周の原稿草稿。船の便箋「Onboard R.M.S. "BAL TIC"」（船舶「バルチック」号船内）9枚を使用。	20.2	25	70	2-2
48	擇善居記	1	2葉反綴。冒頭の題目の下に「瀧川資言初稿」また文末に「大正十二年二月十六日」（1932年）とある。島田篁村の雙桂精舎で瀧川と共に学んだ高橋柳溪と瀧川との間で交わされた、高橋の書室を篁村に「擇善居」と命名してもらった経緯についての問答を漢文で記したものの。瀧川が天因に批正を乞うたか。	24.8	17	80	2-2

整理番号	親番号	子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
49			弾詞小説・□曲目録	1	表紙に「弾詞小説・□(邦か) 曲目録」と打ち付け書き。第1葉下に印記「天因居士」。弾詞小説の目録と「曲目」の目録。すべて「天来生」の原稿用紙を使用。「碩園先生著述目録」「十四、目録索引」中の「四、弾詞小説目録 一冊」に該当か。	226	13	98	3
50			哲学源委	1	新旧の表紙があり、新しい表紙には「哲学源委」と打ち付け書き。古い表紙には「西村天因刪潤／著／哲学源委」「計三十二枚」と墨筆の打ち付け書きと、朱筆の「希臚諸□古代哲学」など打ち付け書き。漢字仮名交じり文による西洋(ギリシア)哲学に関する論考。	245	17	110	3
51			天因曲話	1	内題は「天因曲話 巻四」。巻四以外の部分は欠。外題は「支那戯□篇資料巻下」。虫損・圧着激し。「天因居士稿」の原稿用紙使用。演劇に関する資料を蒐集したものか。「碩園先生著述目録」「二、編著」中の「八、天因曲話 一冊」に該当か。	31	17.5	88	2-2
52			天因曲話 巻一	1	内容確認困難。⑤・33・94・95と同じ装訂で、いずれも「天因居士稿本」の野紙を使用。「碩園先生著述目録」「二、編著」中の「八、天因曲話 一冊」に該当か。	31	17.5	146	5
53			天因雜記	1	雑纂。外題なし。資料名は小口に書き入れられたものを採用。「天因居士稿本」の原稿用紙を使用。明治41年(1908年)2月21日からの堀邸を綴った日記・「天因の威厳」・「文字之伝来」・「朱子学派の史学」などを含む。挟み込まれた四つ折りの半紙(「歴史と儒教」等と記してあり、譯義・講演のメモか)あり。表紙には紺色の七宝繋ぎの模様のものを使用。「碩園先生著述目録」「十二、鈔録」中の「小天地閣雜記 戊申歸郷時」に該当か。	26	17	108	3
54			天因雜抄	1	表紙に「天因雜抄」と打ち付け書き。「天因居士稿本」の原稿用紙を使用。雑纂。謡曲関係の書目類、狩猟関係の書目類、戦国大名の城攻めに関する文章などを含む。冒頭の12葉のみを使用し、以下は記述なし。	263	19	109	3
55			天長節祝日	1	3葉。いずれも「景社文稿」の原稿用紙の反放紙を使用し、裏面に「天長節祝日」と題された、新聞記事の草稿。いずれも未完。	25	33.5	134	5

56	時紹	1	大正10年（1921年）4月19日。天因が孫の時紹出生の時に命名した際のもの。時紹の由来（詩経・大雅）とあわせて、贈の緒有り。 ※現在は西村家の神棚に保管（2019年8月22日調査時）			167	西村家 神棚
57	時彦翁の幼時	1	2葉仮綴。表紙に「時彦翁の幼時 母上淺子刀自詠草」と打ち付け書き。	25.1	16.5	67	2-2
58	時教推定家督相続人廃除届に関する件	1	天因が時教を養子に迎えた件に関する記録。西村時三から長崎控訴院への申請書の写し、長崎控訴院発行の証明書の写し、西村時三の推定家督相続人廃除届の控え、西村時彦・サチ夫妻の時教養子縁組届の控え、各1通。	29	20	195	6
59	西村天因先生厝陰	1	仮綴。中村締梁が天因に就職の世話を求めるために送った漢文の手紙。中村の作った漢文・漢詩、履歴書を含む。「厝陰」は「厝下」と同じく宛名の脇付。	27	18	164	6
60	日記帳	1	表紙中央に「日記帳」と打ち付け書き。寛政元年から大正13年まで、編年体で家の歴史や自身の来歴について記したもの。冒頭部は、後に12月25日から27日の日記に転用（冒頭部の1葉半のみ）。また、後半部には延徳本大学頒贈名簿などを含む。日記帳というよりは雑記帳。	11.5	15.5	128	4
61	郵稿	1	2葉仮綴。波多野七蔵が天因に批正を乞うたもので、「広瀬淡窓南陔河先生贈位奉告祭文」。版心に「景杜文稿」とある原稿用紙を使用。	24.4	16.7	94	3
62	武家の教育	1	「碩園文稿」の原稿用紙の裏を表紙・裏表紙に使用。その表紙に「重野博士 武家の教育」と打ち付け書き。明治28年（1895年）10月26日の大日本教育会第12回総集会における演説の筆記。	24.5	16.8	114	4
63	不忍焚稿	1	上表文四通の草稿。墨筆・朱筆等による修正有り。「景杜文稿」と記された原稿用紙をはじめ、各種の罫紙・原稿用紙を使用。仮綴。外題の脇に「上表文四通毎篇改稿少三四回多八九回」と朱筆の書き込み有り。	24.8	17	61	2-2
64	文士略歴	1	表紙に「文士略歴」と打ち付け書き。「景杜文稿」の原稿用紙の裏紙を使用。三宅石庵・中井蘆江・三輪執斎・伊藤東涯・並河誠所などの概略を記す。第2葉表右欄外に「（懷徳堂先賢墨迹小伝）」また、各葉表左上欄外に「先賢墨迹小伝」の印記あり。	25.3	17.5	138	5

整理番号 親番号	子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
65		辨妄	1	仮綴。第1葉1行目「辨妄」の下に「参考／秘密」と朱書。11月3日付(年不詳)の大阪朝日新聞に掲載された、船舶「第一さくら」第二機が「香」に関する記事に対して、批判を述べた文。「帝国海事協会」の郵便紙を使用。	24	16.3	117	4
66		亡弟遺筆	1	「遺□(送か)中□／亡弟遺筆／明治廿七年十二月卅一日□天囚」と墨筆で打ち付け書きされた包み紙のみ。時輔の遺稿の包み紙。	なし	なし	181	6
67		亡時彦草案	1	「亡時彦草案」と朱筆で打ち付け書きされた、裏紙を用いた包み(帛製)のみ。	なし	なし	182	6
68		文選箋證卷二十四・文選李注補正卷三	1	「文選箋證卷二十四」と「文選李注補正卷三」との合冊。表紙に「文選箋注(正しくは文選箋證) 胡紹英(正しくは胡紹俊)／文選李注補正 孫志祖輯」と打ち付け書き。「天囚居士」の印記有り。	28.2	20.5	34	1-2
69		与李大使札	1	1葉。末尾に、「明治二十八年三月二十五日 各新聞特派記者」、「朝日新聞社」の郵便紙を使用。「清国頭等欽差全權大臣李君閣下」宛。李鴻章に宛てたもの。	27.8	38.6	92	2-2
70		呂氏春秋正誤	1	仮綴。清・陳昌齊撰。表紙打ち付け書きの外題「呂氏春秋正誤」の下に「天囚居士」の印記あり。	28	20.3	143	5
71		旅中見聞録	1	新しい表紙に「旅中見聞録」と表紙打ち付け書き。古い表紙に「旅中見聞録 □碑之歌 天囚□□」と打ち付け書き。但し「旅中見聞録」は冒頭の4葉のみ。以下は「浪華先賢伝」など雑纂。	24	16.3	118	4
72		(仮) 荒木又衛 封書	1	大阪の荒木又衛から西之表の西村時教宛の封書。昭和26年(1951年)12月18日消印。内容は阿倍野の天囚墓継続使用について。	なし	なし	186	6
73		(仮) 延徳本大学寄贈に対する礼状	23	全て西村時教宛。発信者は宇野哲人・今井貫一・神田喜一郎・鈴木虎雄・狩野直喜・宮内大臣牧野伸顯・懷徳堂記念会・住友吉左衛門執事・磯野惟教・大阪府立図書館他。	なし	なし	132	5
74		(仮) 「大阪朝日新聞略史」草稿三種	1	表紙に「大阪朝日新聞略史」と打ち付け書き。明治12年(1879年)から大正5年(1916年)までの「大阪朝日新聞略史」の2種の草稿と、「朝日新聞略史 四十二年より大正五年迄」との合冊。いずれも「朝日新聞合資会社」の郵便紙を使用。	29.5	21	39	2-1

75	(版) 画幅等売却記録	1	画幅の購入者・金額・画幅名の一覧が5葉、西村幸子の領収書が8葉。いずれも「財団法人懷徳堂記念会」の野紙（野紙が両面に印刷されたもの）を使用。	24	168	44	2-1
76	(版) 「寒山詩碑」送付封筒	1	西村時教宛。差出人は古藤嘉吉。なお、西村家所蔵資料の一つに餘蘧「寒山詩碑」の拓本有り。	なし	なし	162	6
77	(版) 木村岬巖翁碑草稿	2	2葉。木村岬巖翁碑の撰文の草稿。版心に「景社文稿」とある原稿用紙を使用。⑨-拓本19は作成された石碑の拓本。天因による撰文は大正3年（1914年）。	25.5	17	192	6
78	(版) 「講義草案」その他	1	雑纂。表紙に「講義草案／上櫻泉先生書」と打ち付け書き。「講義草案」・「書経解題」・「質疑」・「松琴講義録」・「上櫻泉先生書」等を含む。墨筆・朱筆による修正・書き込み多数。「上櫻泉先生書」は「碩園先生文集卷二」に収録。	25.5	17.8	60	2-2
79	(版) 祭文・短冊	1	祭文1通（昭和10年〔1935年〕、西村久満子・〔親族の〕千代比時の1年遅れの50年祭）。短冊5枚（昭和2年〔1927年〕4月3日。内1枚は天因「時彦」が「先師豊山先生の為に服せし心喪の期みちける時」に献んだもの）。	36	6	179	6
80	(版) 雑記	1	仮綴。草稿。「左宗棠」・「中山信女事略」等。朱筆による修正有り。天因の署名はないが、用紙や筆跡から天因の手による可能性が高い。	25	16	180	6
81	(版) 雑稿（天因以外）一式	14	中に、明治42年（1909年）1月27日付大阪朝日新聞に掲載された天因の「宋学の首唱」に対する批判を述べた文1通・重野安禪が「陳先生大人」に西村天因を紹介する書状1通・及び「陳先生大人台啓」の封筒1枚を含む。	なし	なし	122	4
82	(版) 雑纂	1	「鄙稿」（天因に批正を乞うたもので、版心に「景社文稿」とある原稿用紙を使用。⑨-61と同筆。おそらくは波多野七蔵）・「資言」（瀧川君山の記したもの）・「貝塚種子島家由緒」・「貝塚種子島氏略譜」等を仮綴。	24.5	16.8	95	3
83	(版) 雑纂	1	雑纂。「練錦録」（明治29年〔1896年〕2月の天因自識の序のある、諸子（戸子・貫子など）に関する批評）・「楠家系図」（別筆）・「若武者」などを収録。ほとんどが「池田製」の野紙・原稿用紙を使用。原稿用紙の挟み込み（銀行に関する連載か）あり。表紙には題簽の剥落した痕跡があるが、題簽の所在は不明。	25.8	18.5	104	3

整理番号	親番号	子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
84			(仮) 雑纂	1	表紙は紺地・七宝模様の紙を、また本文には版心に「朝日新聞合資会社」とある用紙を使用。天図筆の可能性大。「国号考」・「蛮夷清夏考」・「漢民族」・「歴代詔勅」・「大坂三町人 尼崎又右衛門」等、雑多な研究雑記。	27	18.6	156	6
85			(仮) 雑纂	1	仮綴。表紙には版心に「景社文稿」と入った原稿用紙を使用、本文には版心に「碩園文稿」と入った用紙の反故紙を使用。天図筆の可能性大。「隼人」・「近衛氏と島津氏」・神社や寺、山川など、鹿児島 の歴史や文化等に関する雑記を収録。	25	17	157	6
86			(仮) 雑録	1	仮綴。版心に「朝日新聞合資会社」とある野紙を一部に使用しており、天図筆の可能性大。冒頭2葉は大阪朝日新聞社社員の入退社・逝去年月の一覧。以下、何かの名簿などを含む。	24	16	168	6
87			(仮) 重野安繹関連原稿	1	綴紐切により、冒頭部欠落。仮綴。版心に「天図書室」とある原稿用紙を使用。一部新聞の切り抜き(明治43年[1910年]12月8日～20日に大阪朝日新聞に連載された「重野成齋先生」)を貼り付け、一部は直接書き込み。朱筆の加筆修正有り。重野安繹の生涯・業績を述べたもの。天図の執筆した「成齋先生行状資料」(「重野博士史学論文集」上巻[雄山閣、1938年]所収)の草稿か。	27.5	19.5	178	6
88			(仮) 渋谷精一からの書簡 (西村時教宛)	1	全て西村時教宛。渋谷氏は大阪において、西村家と関係者との間の中継役を担っていた模様(裁判や資料等)。葉書2通・封書13通(内12通は「至急親展」)。	なし	なし	176	6
89			(仮) 写真帳西村家	1	「日本古代語音総考」を台紙にして貼り付け。	44	36	73	箱外
90			(仮) 写真類 1	47	46枚と紙片(写真が羽生達子の満十歳の誕生日記念であることを示すもの) 1枚。天図関連のものなど。	なし	なし	197	6
91			(仮) 写真類 2	72	写真72枚。西村浅子宛葉書1枚。印刷物(葉書や肖像画など) 4枚。「辛丑六月十一日清国金陵に於てうつしぬ傍に立ちたるに下人趙以貴なり。天図居士しるす」と記した紙片1枚有り。	なし	なし	198	6
92			(仮) 写真類 3	18	キャプション付き天図関連写真5枚。天図写真1枚。由来不明の集合写真1枚。「大正12年四月七日島津家福輔所親交会」集合写真1枚。西村浅子関連写真10枚。	なし	なし	199	6

93	(仮) 写真類 4	29	カラス乾板 4 枚（豊山の物 1 枚含む）。写真 16 枚。天因写真 2 枚。時輔遺影 5 枚（印刷物含む）。天因遺影印刷物 1 枚（「懷徳」第 2 号の追悼録で使用したものか）。青銅器印刷物 1 枚。	なし	なし	200	6
94	(仮) 狩猟関係詩抄	1	版心に「天因居士稿本」と入った原稿用紙を使用。虫損が激しく、外題不明だが、天因筆の可能性大。第 1 葉表冒頭は「天皇遊猟内野之時中皇命使用人連老歌歌（万葉集一雄略）」とあり、以下狩猟に関する和歌をまとめたもの。⑤-33・52・95 と表訂が同じ。間には「尚武由来考」「生麦事件の始末」の切り抜きをスクラップにした紙を挟み込んでいる。	30.8	17.5	160	6
95	(仮) 狩猟関係資料	2	2 冊。いずれも「天因居士稿本」の野紙を使用。1 冊目の表紙に打ち付け書きの外題「□類□科」「狩猟史料」か）2 冊目表紙に印記「天因居士」あり。2 冊目の外題の存否は虫損により不明。2 冊とも、書き込みのない余白部分がある。⑤-33・52・94 と同じ表訂。	31	17.5	145	5
96	(仮) 狩猟に関する雑纂	1	外題無し。「鶴」・「鶴」・「雄」・「鶴」の項目を立てて、「年山紀聞」や「甲子夜話」などから抜き書きしたもの。	23.8	16.2	93	3
97	(仮) 抄詩	1	仮綴。版心に「景社文稿」と入った原稿用紙の反故紙の裏を使用。おそらくは天因の雑記帳。表紙に「山本三省」とあるが、三省筆の可能性は低い。章題物「滁州西澗」・劉禹錫「金陵五題・石晉城」などの詩が抜き書きされている。冒頭の 7 葉のみ記述され、以下は空白。	25	17	158	6
98	(仮) 書籍価格表	1	5 葉仮綴。野紙に記された書物の売買記録。天因との関連については不明。	24	16.3	169	6
99	(仮) 書籍目録	1	仮綴。版心に「朝日新聞合資会社」とある野紙を使用。天因筆か。唐本・日本・狂詩の三部+補遺からなり、書名・冊数を記す。所蔵書の目録と思われるが、詳細は不明。	24.5	16.5	165	6
100	(仮) 「成斎先生行状資料」草稿	1	表紙に「先師行状資料」と打ち付け書き。抄本。「天因書室」の原稿用紙を使用。仮綴。但し、表紙・目次部分（1 葉）・本文冒頭の 2 葉のみ現存し、完本ではない。「重野博士史学論文集」（雄山閣、1938-39 年）所収の「成斎先生行状資料」の草稿。「碩園先生著述目録」「十三、研究資料」中の「先師行状資料 一冊」の一部に該当か。	27	19.8	43	2-1

整理番号	親番号	子番号	資料名	点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
	101		(仮) 尺牘格式	1	題簽が剥かれて、外題不明。表紙には、紺色の七宝繋ぎの模様のものを使用。「尺牘格式」・「墓誌格式」・「極密顧問官従一位勲一等杉公墓誌」・「辭章論略相」を収録。墨筆・朱筆の書き込み多数。「碩園先生著述目錄」・「三、講義底稿」中の「七、辭章論畧三卷同補一卷」の一部に該当か。地には「辭章論畧相」と書き入れ。	26.3	18.5	76	2-2
	102		(仮) 楚辭関係書目類雑纂	1	表紙に「楚騷□□ 芝菴手□□」と外題を打ち付け書き。表紙にはたにも打ち付け書きあり。「楚詞類書目 芝菴輯」・「九歌譜」・「叢書挙要楚辭書目」等の雑纂。	28	20.5	37	2-1
	103		(仮) 手帳	1	スケッチ・住所録等を含む雑多な内容のメモ書き。明治37年(1904年)4月頃からの記述あり。	15	9.5	23	1-2
	104		(仮) 天凶宛書付類 一式	35	差出人は中国の知人・友人か(すべてが天凶宛かは不明)。	なし	なし	183	6
	105		(仮) 天凶宛書簡・記事原稿	1	半葉2枚。手紙の上欄外に朱筆で「息」記事の原稿は、「木像」・「五剣山」。	25	17.5	131	5
	106		(仮) 天凶宛封書	1	大阪・住吉公團の鈴吉亭から、東京の天凶宛に送られた封書の封筒。大正12年(1923年)12月15日の消印付の封筒のみ。	なし	なし	184	6
	107		(仮) 天凶に贈る漢文・漢詩	1	小牧昌業が「南島俳功伝」に関して書いた漢文(3葉)と、七言絶句4句(各1葉)。	23	12.5	194	6
	108		(仮) 天凶和歌紙片	2	天凶の和歌を記した紙片。2枚とも同内容。	23	12.5	193	6
	109		(仮) 同人詩集	1	漢時の草稿類。仮綴じした各種の野紙・原稿用紙(「碩園文稿」・「天凶居士稿本」とあるものを含む)に記されている。仮綴。書き入れ有り。	28.2	18.5	59	2-2
	110		(仮) 並河総次郎受取証	1	1葉。並河総次郎が(1)並河誠所「撰集古録」3冊(2)新井鳴門「遷都前炭金石遺文」1冊について、天凶からの返却を受け取ったことを証するもの。大正11年(1922年)9月付。	23.3	32.3	174	6
	111		(仮) 西村幸子宛書簡	6	大正13年(1924年)の消印のもの。差出人は武内義雄・伊地知季珍・日高実容・小牧健夫・市嶋謙吉・大森鍾一。[延徳本大学]のれなど。			12	1-1
	112		(仮) 西村幸子作文	1	表紙に「明治廿七年四月／作文／佐知子」と打ち付け書きされたものと、「大正於年四月／作文帳／西村幸子」と打ち付け書きされたものとの合冊。仮綴。	24.7	17	14	1-1

113	(仮) 西村家資料	1	大福綴じ資料が主。1式。「明治二十七年十二月三十日亡弟遺品始末 大坂西村時彦」「明治三十九年十一月二十九日所有地収納帳 西村時彦」「天正十五年九月二十九日 故時彦三年祭座」など計26冊。ほか、「先人五十年祭」と題した紙片1枚（斎主に時彦・幸子・時教が手がけている）を含む。	40	14	139	箱外
114	(仮) 西村時彦 書状	1	己酉（明治42年〔1909年〕）4月26日付。墨筆による修正があることとか、浄書前のものか。書状の包み紙には、墨書で「越前時安君追遠祭文書・朱書で「必要」と打ち付け書き。また「西村」の印記有り。種子島家の祭祀に西村時安を加えるとの知らせが、種子島守時から届いたことに対する礼状。	18	76	189	6
115	(仮) 西村時彦・時教連名 葉書	1	時紹誕生の祝いに対するれと、宮参りをすませ内祝いを送ったこととを、西之表の西村家親戚宛に伝えるもの。	なし	なし	190	6
116	(仮) 年譜草稿	1	仮綴。第1葉右下に「天囚居士」の印記有り。発表した著作を含む天囚の年譜。	27.2	20	55	2-1
117	(仮) 早川兼揚 書状	1	島津家臨時編纂所編纂長であった天囚の没後、島津家より未亡人・幸子に対して、金一十円を送金した通知。差出人の早川兼揚は、公卿島津忠重家令心得。大正13年（1924年）12月4日付。	19.5	87	188	6
118	(仮) 不明資料・楚辞関係資料	1	前半は、絵入りの資料（内容不明）。後半は、楚辞関係資料の目録類で、末尾に「内閣文庫所蔵楚辞類唐本書目」を含む。合冊では無効、虫損等により、二つの資料が張り付いたもの。	27	19	15	1-1
119	(仮) 文章論五種合冊	1	(1)「魏文帝典論論文」・「摯虞文章流別論」・「陸士衡文賦并序」・「顔子家訓文章篇」を収録したもの、(2)「人文化成論」・「文章論」・「編年紀伝論」他を収録したもの、(3)「文章正宗綱目」・「古文奇賞略記」・「四六法海編輯大意」・「論文四則」を収録したもの、(4)「黄梨洲論文」・(5)「方望溪古文約選序例」・「海峯論文偶記」・「初月楼古文緒論」を収録したもの、合計5種の合冊。(1)の表紙には「典論論文／文章流別論／文賦／顔子家訓文章篇」と打ち付け書き。本文第1葉表右下に「碩園珍藏」の印記有り。(2)の表紙には「唐入論文」と打ち付け書き。(3)の表紙には「文章正宗綱目／古文奇賞略記 俗言也（この3字のみ朱書） 論文四則／四六法海編輯大意」と打ち付け書き。(4)の表紙には「黄梨洲論文」と打ち付け書き。(5)の表紙には「方氏約選序例 年譜末段附／海峯論文偶記／初月楼古文緒論」と打ち付け書き。	24.5	16	45	2-1

整理番号	資料名		点数	備考	縦	横	仮番号	箱番号
	親番号	子番号						
120		(仮) 牧野篤好 書状	1	牧野篤好 (初代熊毛郡長) から天因への書状。明治27年 (1894年) 12月12日付。冒頭部と末尾とが欠損。	19.2	54	196	6
121		(仮) 松山直蔵／西村母平 山氏／十管一壽序	1	卷子本。	21.2	169 (最終行の 墨跡での 長5)	9	1-1

⑥器物 1 (軸・拓本)

整理番号	資料名		点数	備考		縦	横
天因1	「生財有道」		1			40	145
天因2	「勿違書」書幅		1	壬寅の記有り		154	40
天因3	「留(?) 朝五十六云々」書幅		1	吉野山十終二(?) 之一と記有り。2と同一の破損。		136	34
天因4	「辛盤献寿云々」書幅		1	丙午元旦の記有り。		137	40
天因5	「凡為人子之礼云々」書幅		1	曲礼之語の記有り。		138	34
天因6	短冊一式 (天因以外も含む)		1	天因のものは2枚 (内1枚裏有り)。ほか20枚の内1枚は絵のみ。内3枚は「西村時彦」と印刷された葉紙。外寸は、最も縦が長い短冊を採寸したもの。		37	6
天因7	「明治天皇詠辞」		1			138	61
天因8	「放不可長欲不可従云々」書幅		1	戊辰春日の記有り。		140	68
天因9	「春(?) 風云々」書幅		1	帛省出懷の記有り。布。		135	68
天因10	「晩牽黄犬云々」書幅		1	狽帛有の記有り。布。		136	37
天因11	「鑿々復股云々」書幅		1	錢塘觀潮歌。布。		126	37
天因12	「别才出天栗云々」書幅		1	今戸(?) 君一周忌云々と記有り。大正庚申十月の記有り。布。		55	47
天因13	「□□(自俟か)入奢易於下梯自奢反俟難於上天」		1	丙午六月の記有り。		34	112
天因14	「西村子所墓誌銘」 「先考行実」		1	箱書き有り。外寸は、本紙のみ。		22.5 22.5	65 131

天因15	「後世系脈先唯云々」書	1	帰郷書歳之一の記有り。断裂あり。外寸は本紙のみ。	118	30
天因16	「人生無根帶云々」	1	己未夏日云々の記有り。断裂あり。天因晩年の書か。劣化酷い。外寸は本紙のみ。	130	41.5
天因17	「蓬生麻中不扶而直」書幅	1	甲子夏日の記有り。	130.5	33.5
天因18	「天塹砥平車云々」軸	1	人吉車中作記有り。外寸は本紙のみ。	111	51
天因19	「養氣堂」書幅	1		131	34
天因20	「己偷至樂在游觀云々」書幅	1	野山樸時之一と記有り。	138	35
天因21	「烟波浩云々」軸	1	修復済み。明治21年(1888年)の作品。外寸は本紙のみ。	101	39
天因22	「千里觀光云々」書幅	1	清国西湖書院公議席上と記有り。	148	41
豊山1	「百事無能愧犬云々」書幅	1	明治33年(1900年)5月9日。	152	42
豊山2	「安樂菴」	1		35	71
豊山3	豊山四字書	1	末尾二文字は「貞鴻」か。	151	41
豊山4	豊山四字書	1		34.5	104
豊山5	「人無信不立」書	1		151	42
豊山6	豊山先生寄せ書き	1	寄せ書き。上部が欠けているため、読解できないが、四字のタイトルを豊山が書いている。下に寄せ書き。要修復。	141	80
天因交流1	「景社題名第三」	1	狩野直喜題。会員連名。	34	131
天因交流2	「大礼記念章之記」	1	大正4年(1915年)11月10日。	33	42
天因交流3	「送鶴操」書	1	大正10年(1921年)9月に天因が東京に向かうにあたり贈った歌。中井木菟麻呂(天生)筆。	136	32
天因交流4	「或問子能無心乎云々」書幅	1	張之洞筆。布を軸装した形跡有り。外寸は本紙のみ。	69	33
天因交流5	「春申江上云々」書幅	1	蔣麟筆。光緒癸卯五月(明治36年[1903年]5月)の日付あり。布。	36	76
天因交流6	「通遼中外地」「瞻觀山水図」	2	五字。聯。蔡衡生書。	67.5	18
天因交流7	「風月一江春水潤」「詩情阿地遠人親」	2	七字。聯。揚子筌筆。	67.5	18
天因交流8	「聊將筆墨酬知己」「定是文章有夙縁」	2	七字。聯。楊樹山筆。	67.5	18
天因交流9	「此間難時云々」幅	1	書簡を軸装したものか。筆者未詳。外寸は本紙のみ。	27	43

整理番号	資料名	点数	備考	縦	横
天囚交流10	「読書会章程」「擬合同稿紳」	2	亜東読書会。	24	95
その他貴重1	「送日東正使了庵和尚帰国序」幅	1	明正徳8年(1513年)、王守仁筆のレトリカ。	33	97
拓本1	前田豊山関連	1	要修復。紙片有り。		
拓本2	一部のみ	1			
拓本3	文学博士西村君墓誌拓本	4	おそらくは複写。		
拓本4	数枚	1	要修復。		
拓本5	拓本	1	光緒4年(1878年)7月の日付あり。		
拓本6	数枚	1	二種混在の可能性有り。		
拓本7	爺越関連	1			
拓本8	碑文	1	松枝町の梅について詠んだ碑文か。上部破損。		
拓本9	拓本	1	一部欠落か。松枝町の梅について詠んだ碑文か。上部破損。		
拓本10	拓本	1	一部のみ。		
拓本11	文学博士萩野君墓誌	1			
拓本12	藤原朝臣親章墓誌	1			
拓本13	拓本	1	朱墨本の文字を選んで作った碑文。		
拓本14	贈正四位藤井君旧蹟碑拓本	1	大正12年(1923年)4月。		
拓本15	岳陽牧野君碑銘	1	大正12年(1923年)3月。冒頭の一字欠。上部タイトル「篤信好学」。		
拓本16	『老子』碑文拓本	2	大書景龍2年(708年)正月碑文。道経と徳経。		
拓本17	拓本	1	二種が混在している可能性有り。		
拓本18	拓本	4			
拓本19	木村耕蔵翁碑拓本	2	木村耕蔵翁碑(上部タイトル)。		
拓本20	拓本	3			
拓本21	拓本	9			
拓本22	拓本	1	要修復。		

拓本23	大阪木綿業記念碑拓本	2			
拓本24	拓本	1			
拓本25	拓本	1			
拓本26	謁音廟二十一韻	1	拓本類の中に入っていたもの。これ自体は拓本ではない。		
拓本27	寒山寺楓橋夜泊詩石刻拓本	1	俞樾		

⑦器物2（額・その他）

整理番号	資料名	点数	備考
1	シルクハットケース	1	英国・リンカーンベネット社製
2	シルクハット	1	英国・リンカーンベネット社製
3	ボーラーハット	1	英国・リンカーンベネット社製
4	ボーラーハット	1	日本・大徳社製
5	扁額「松額」	1	本誌部分 縦27.5cm×横46.5cm、額全体 縦39.5cm×横77.5cm
6	扁額「読騷廬」	1	本紙部分 縦30cm×横130cm、額全体 縦38cm×横158cm